



# 軽防協ニュース速報

## 2017年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2017年9月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。しかし、オーストラリアからの 2017 年第 1 四半期の報告がわずかに遅れている。報告され次第直ちに配信する予定である。その他の国の 2017 年第 2 四半期の報告は通常の形式で記載する。

### オーストラリアの 2017 年第 1 四半期の報告

オーストラリアからの第 1 四半期の報告は後日配信する。

### 2017 年第 2 四半期の報告

#### アルゼンチン

報告未着。

#### オーストラリア

報告未着。

#### カナダ

カナダの発生報告は、第 2 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。

#### チリ

報告未着。

#### デンマーク

報告事項なし。

#### フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2017 年 4 月 7 日にカルバドス県で EHV-1 による流産がワクチン未接種の 11 歳サラブレッド種 1 例で確認された。胎子肝臓を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017 年 4 月 10 日にサルト県でワクチン接種済みの黄疸を呈していた 17 歳フレンチ Trotter 1 例が新たな症例として確認された。同じ牧場の繁殖牝馬 5 例も流産を認めた。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。(流行の初発は、2017 年 3 月 31 日で、ワクチン接種済みの 9 歳フレンチ Trotter であった。子宮スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。)

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による感染

2017 年 4 月 3 日にピレネー=アトランティック県の調教施設で EHV-1 による感染が 1 例確認された。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。2017 年 4 月 12 日、新規 6 例は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。感染馬は発熱の症状を呈した。

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

2017 年 6 月 19 日、オーブ県において EHV-1 による神経疾患の発生が 1 例確認された。感染馬は 9 歳アラブ雄馬で、運動失調および尿失禁を呈した。血液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2017 年 4 月 4 日、ウール県にて EHV-1 による呼吸器疾患が 1 例確認された。感染馬は 3 歳雌ロバで発咳、鼻漏、高熱等の症状を呈した。鼻腔スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

#### ウマヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) による瘡疹

オルネ県の異なる施設で EHV-3 による瘡疹の発生が、牝馬で 2 例確認された。生殖器スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。2 例のうち 1 例は、本シーズンの交配歴はなかった。2 例に疫学的な関連は認められなかった。

#### ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

14 件の EHV-4 による呼吸器疾患が確認された (9 件は 1 例ずつ、3 件は 2 例ずつ、2 件は 3 例ずつ)。発生地域はアン県、オード県、カルバドス県、オート=ガロンヌ県、イル=エ=ビレーヌ県、ロアール=アトランティック県、マンシュ県、オルネ県、ピレネー=アトランティック県、バンデー県であった。感染馬は発熱や鼻漏、発咳の症状を呈した。鼻咽

頭スワブ(13件)および鼻腔スワブ(1件)を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。1件はサラブレッド種での発生であった。

2017年4月15日、EHV-4による呼吸器疾患が雄ウマで1例確認された。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

### レプトスピラ症による流産

2017年4月10日、ウール県にてレプトスピラ症による流産が6歳サラブレッド種牝馬で1例確認された。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

### ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

### ロタウイルス

オルネ県、ジロンド県にてロタウイルス感染による子馬の下痢症状が3件確認された(2件は1例、1件は2例)。糞便、直腸スワブもしくは腸内容物を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

16件の発生が報告された(9件は1例、2件は2例、他は4例、5例、7例、9例、25例が1件ずつ)。発生地域はアリエージュ県、カルバドス県、ウール県、オート＝ガロンヌ県、ロアール＝エ＝シェール県、ロアール＝アトランティック県、モーゼル県、パ＝ド＝カレー県、セーヌ＝エ＝マルム県、タルヌ県、オート＝ビエンヌ県、バル＝ド＝マルヌ県であった。感染馬は発咳、鼻漏、発熱、リンパ節腫脹、食欲不振、嚥下障害の症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブ(9例)、膿もしくは膿様鼻漏(3例)、喉嚢洗浄液(2例)、鼻腔スワブ(1例)、血液(1例)を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

### ドイツ

ドイツの発生報告は、第2四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。

### Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

#### 馬伝染性子宮炎(CEM)

2017年第2四半期の際に、異なる13施設においてCEMの発生がアイスランド種で15例(10例は種牝馬、5例は繁殖牝馬)確認された。確定診断は細菌培養および生殖器スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

#### **ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産**

2017 年 2 四半期の間に、異なる 3 施設において EHV-1 による流産の発生が 3 例確認された。確定診断は胎子肺生検組織、子宮排出物、子宮内膜スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

#### **ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患**

2017 年第 2 四半期の間に、1 施設において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が 5 例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

#### **ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患**

2017 年第 2 四半期の間に、異なる 3 施設において EHV-4 による呼吸器疾患の発生が 9 例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

#### **腺疫 (*Streptococcus equi*)**

2017 年第 2 四半期に、異なる 4 施設において腺疫の発生が 4 例確認された。感染馬は発熱、鼻漏の症状を呈した。確定診断は、細菌培養、鼻咽頭スワブ(2 例)や下顎リンパ節膿瘍(1 例)、喉嚢洗浄液(1 例)を用いた PCR 検査によってなされた。

#### **香港**

報告事項なし。

#### **アイルランド共和国**

##### **ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1)**

2017 年第 2 四半期に 4 例の EHV-1 感染が報告された。発生地域はキルデア(2 例)、ティペラリー(2 例)であった。更なる情報は得られていない。

##### **ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4)**

2017 年第 2 四半期にキルケニーにて、1 例の EHV-4 感染が報告された。更なる情報は得られていない。

#### **イタリア**

報告未着。

#### **日本**

##### **ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産**

2017年4月14日から2017年5月19日の間に、異なる10施設においてEHV-1による流産の発生が11例確認された。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所および北海道胆振家畜保健衛生所で実施された。10例はワクチン接種済みであった。

#### マレーシア

報告未着。

#### ニュージーランド

報告事項なし。

#### シンガポール

報告事項なし。

#### 南アフリカ

##### アフリカ馬疫 (AHS)

2017年第2四半期に、ウエスタンケープ州を除く南アフリカ全土でAHSの発生が報告されている。AHS清浄地域であるウエスタンケープ州では、発生していない。AHS汚染地域での発生は、通常この時期に想定されているものである。

##### ウマ脳症ウイルス(EE)

南アフリカにおいてEEの検査は、通常AHSと同時に行われる。主にハウテン州にてEEの発生が確認されているが、今年の同時期に比べて蔓延していない。

#### アルボウイルス

2017年1月から6月の間、ミドルブルグウイルス(MIDV)およびウエストナイルウイルス(WNV)の陽性例の増加が、2016年に引き続き南アフリカ全土で確認されている。これらはプレトリア大学ウイルス学部門ウイルス性人獣共通感染症センターの節足動物媒介性新興感染症および呼吸器系ウイルスプログラムによる進行中のサーベイランス計画に基づいて調査されている。全国の獣医師が、年間を通して遭遇した神経症例の検体を送付している。

WNV44例およびMIDV41例の発生が確認されており、2例はMIDVとEEVの重感染例、5例はWNVとEEVの重感染例、3例がMIDVとWNVの重感染例であった。WNVのPCR陽性例は全て系統2のWNVに由来していた。発生は4月および5月にピークを迎えていたが、涼しくなる6月には有意に減少した。

WNVおよびMIDVの陽性例の多くは、ハウテン州、クワズール・ナタール州およびノーザンケープ州で発生が確認されている。診断には、WNV、ウェセルスブロンウイルス、

ミドルブルグウイルス、シンドビスウイルスに特異的なプローブを用いたフラビウイルス属およびアルファウイルス属に対するリアルタイム RT-PCR、シュニウイルスおよび馬脳症ウイルスに対してはそれぞれ特異的 RT-PCR を用いた。WNV に対する血清学診断は、IgM 捕捉 ELISA と確定診断としての中和試験が含まれる。

WNV に対するワクチン接種を行っている馬はわずかであるが、確定診断の結果が注意を喚起し、より多くの馬主や獣医師が来期に向けたワクチン接種を計画することが期待できる。

### **腺疫 (*Streptococcus equi*)**

腺疫は南アフリカでは風土病であり、散発的に発生している。

### **韓国**

報告事項なし。

### **スペイン**

報告未着。

### **スウェーデン**

報告事項なし。

### **スイス**

#### **非定型ミオパチー**

2017 年第 2 四半期中に同じ地域の異なる 2 施設にて非定型ミオパチーの発生が 2 例確認された。診断は血清 CK および AST 値が非常に高値を示したことに基づいてなされた。

#### **エールリヒア症**

2017 年第 2 四半期中に異なる 3 施設においてエールリヒア症が 4 例確認された。診断は菌分離によってなされた。

#### **ウマヘルペスウイルス 1 および 4 型 (EHV-1 および 4)**

2017 年 5 月 19 日、EHV-1 および EHV-4 の混合感染が 1 例確認された。感染馬は呼吸器症状や発熱を呈した。確定診断は PCR でなされ、EHV-4 に対しては血液検体が用いられた。

#### **馬伝染性貧血(EIA)**

2017年7月10日、ポロ競技用ポニーで1例確認された。確定診断は前回報告(ICC7月11日 #7)の通り、血清学診断によってなされた。

#### ピロプラズマ病

2017年5月31日、ピロプラズマ病が1例確認された。確定診断は血清学診断によってなされた。

#### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017年第2四半期中に異なる地域の異なる3施設にて腺疫の発生が3例確認された。確定診断は菌分離によってなされた。

#### トルコ

報告事項なし。

#### アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

#### イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第1四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

#### アメリカ合衆国

##### クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州において、*C. perfringens* A型毒素による感染が子馬で3例確認された。同州ではティザー病(*C. piliforme*)も1例確認されており、*C. novyi* および *C. sordelli* 感染のそれぞれ単独症例も確認された。

##### ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 が複数の州で拡大し、EHV-4 は主に弱齢の子馬の呼吸器疾患と関連していた。2017年第2四半期中に EHV-1 による流産は1例のみであった。疫学的に関連しない EHV-1 による神経疾患の発生はカルフォルニア州、コロラド州、メリーランド州およびニュージャージー州で報告された。報告された発生については、それぞれ単発例であった。これらの疾患に関連する EHV-1 株の遺伝子型については、限られた情報しか入手できなかった。

##### ウマヘルペスウイルス 2型 (EHV-2) および 5型 (EHV-5)

EHV-2 あるいは EHV-5 感染が複数の州で複数報告され、呼吸器疾患に関連していると考えられる症例もあった。

### 馬伝染性貧血(EIA)

コロラド州において2施設で馬伝染性貧血が確認された。疫学的に2例は関連していた。初発例は5歳の競技用クォーターホースであった。続いて2例の発生が同一施設で確認された。2つ目の施設では9頭中3頭が馬伝染性貧血と診断された。

### 馬インフルエンザ

アメリカにおいて馬インフルエンザは風土病である。14州で発生が確認され、7州では複数の発生が認められている。

### ノカルジア症

ケンタッキー州において、*Amycolatopsis spp.*感染によるノカルジア症が5例、*Crossiella equi* 感染が2例、それぞれ発生が確認されている。

### 馬増殖性腸症

ケンタッキー州において、子馬の *Lawsonia intracellularis* 感染が1例報告された。

### ロドコッカス感染症

アメリカにおいてロドコッカス感染症は風土病である。2017年第2四半期中に22例の発生が確認された。

### サルモネラ症

2017年第2四半期中にサルモネラ症の感染が23例確認されており、血清型B感染が15例、C1感染が2例、C2感染が6例であった。

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカにおいて腺疫は風土病であり、16州で発生が確認されている。4州で複数の発生が認められている。ある西部の州の施設では馬やポニーにおいて高い発病率を認めており、アイダホ州およびユタ州の管理された野生馬においても同様に認めた。

### ウエストナイル脳炎(WNE)

ケンタッキー州においてウエストナイルウイルス感染がサラブレッド種1歳馬で1例確認された。同馬は2016年にワクチン接種歴があった。

ベネズエラ  
報告未着。